

「大規模団地再生」に向けて、 「横浜若葉台みらいづくりプランの推進に関する事業連携協定」を 神奈川県住宅供給公社、若葉台まちづくりセンター、横浜市が締結します。

横浜市旭区内の大規模団地である横浜若葉台では、将来にわたって選ばれ続けるまちとして持続させることを目的として、住民が主体となって『横浜若葉台みらいづくりプラン』を平成29年3月に策定し、取組を推進しています。

このたび、SDGs 未来都市を目指す横浜市は、「旭区大規模団地再生モデル構築事業」の取組の一環として、4月27日、神奈川県住宅供給公社（以下、「公社」という）と一般財団法人若葉台まちづくりセンター（以下、「まちづくりセンター」という）との3者で「横浜若葉台みらいづくりプランの推進に関する事業連携協定」を締結します。

これにより相互連携を密にし、具体的な取組を推進することで、持続可能なまちの実現を図ります。

1 協定の内容

(1) 目的

- ① 横浜若葉台みらいづくりプランの推進
- ② 横浜市内の大規模団地再生推進への寄与

(2) 取組事項

- ① 横浜若葉台みらいづくりプラン推進会議の事務局及び部会の運営
- ② 横浜若葉台みらいづくりプランの具体化に向けた取組
- ③ 地域経済活性化や商店街振興の具体化に向けた取組
- ④ 脱炭素化など温暖化対策の具体化に向けた取組

(3) 協定期間

平成30年4月27日から平成32年3月31日まで

(4) 協定の締結式

日時：平成30年4月27日（金）10時50分～11時30分

場所：旭区役所2階1号会議室

※取材については、4月25日（水）までにご連絡をお願いします。

連絡先：旭区区政推進課 Tel 045-954-6027

(5) 出席者

- ・旭区長 下田 康晴
- ・神奈川県住宅供給公社 理事長 猪股 篤雄
- ・一般財団法人若葉台まちづくりセンター 理事長 森本 敏昭



【先行実施した取組】

横浜若葉台みらいづくりプラン
推進会議A部会 アクションプラン
検討ワークショップ（H30年2月）

2 具体的な取組

年度に着手する主な取組について、以下を検討しています。

(1) 地域住民主体の取組支援

子ども達を地域で見守る環境づくりを目指す『横浜若葉台こども憲章』の検討や、高齢者を支援する活動団体の連携などの取組を支援します。

(2) 地域の魅力発信

ワークショップなどを活用して、地域住民が知る地域の魅力や最新情報を見える化するなど団地の内外へ若葉台の魅力を発信します。

(3) 地域経済活性化の検討

企業と連携したモデル事業の実施など、I・TOP 横浜や環境未来都市推進プロジェクトを活用した地域経済活性化などについて検討します。

お問合せ先

旭区区政推進課長	押見 保志	Tel. 045-954-6025
神奈川県住宅供給公社団地再生課長	吉田 祥一郎	Tel. 045-651-1735
一般財団法人若葉台まちづくりセンター理事	野口 昌弘	Tel. 045-921-3361

【参考】横浜若葉台の概要

横浜若葉台は、丘陵地の緑や生態系を保全しながら、分離された歩車道や高層住宅、都市の利便機能を計画的に配置した郊外型市街地の理想形として公社により計画・開発され、まちづくりセンターによる統括的な住宅の管理や運営が行われてきました。地域では、様々な組織や住民グループが相互に連携し、自らの手でまちづくりを進めており、他では類をみない先進的なエリアマネジメントを展開しています。

しかしながら入居開始から約40年が経過し、経年による様々な課題や予想される世代交代に対応するためには、総合的・戦略的なアプローチを行い、将来の居住者を獲得していくことが求められます。

そのため、地域住民等（自治会・管理組合・NPO など）や関係団体で今後の取組事項などについて検討を行い、平成29年3月に『横浜若葉台みらいづくりプラン』としてまとめ、12月に取組を具体化するための『横浜若葉台みらいづくりプラン推進会議』を立ち上げました。



↑横浜若葉台の俯瞰写真



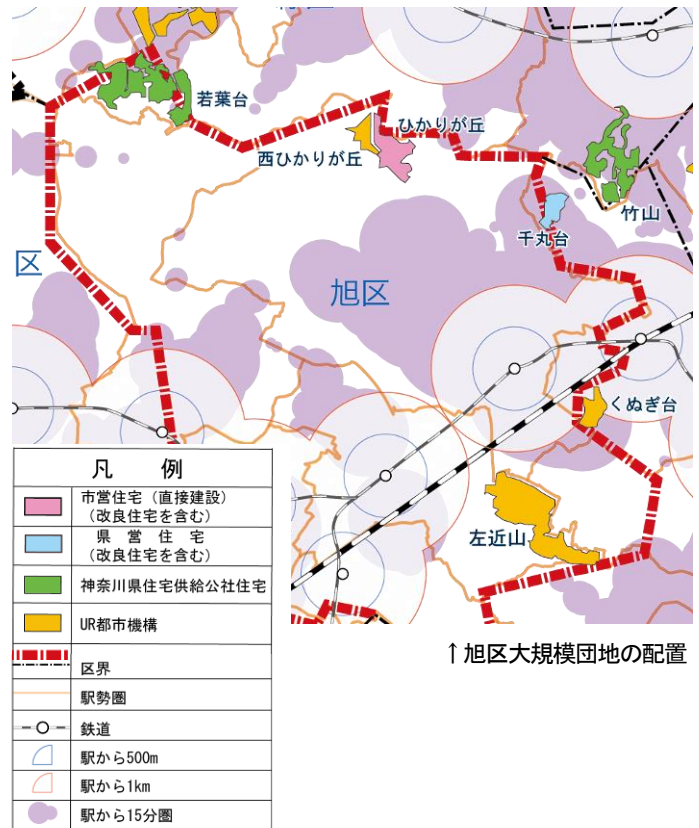
←花火募金を募り、例年2000発を越える花火を打ち上げている（祝若葉台連合自治会25周年）

【参考】旭区大規模団地再生モデル構築事業とは

横浜市内には築35年以上経過した大規模団地が約50団地（※）あります。緑豊かで良好な住環境として開発されたこれらの団地は、現在、少子高齢化に伴う医療・介護・生活支援・住替えのニーズ増大などの課題が顕在化しており、これらを解決するためには、ハードとソフト両面で関係区局が連携し検討を進める必要があります。

旭区内には、4つの大規模団地（若葉台団地、左近山団地、ひかりが丘団地、西ひかりが丘団地）があり、いずれも最寄駅まで15分以上かかる交通移動の不便な地域に位置しています。このため、市内の他の団地に比べて人口減少と高齢化が進行し、様々な課題が顕在化しています。

この4つの大規模団地において、課題解決の取組を先行着手するため、『2025年問題を見据えた旭区大規模団地再生モデル構築事業』が平成29年度から始まりました。地域住民や事業者、大学、行政等が協働するまちづくりの取り組みです。



↑旭区大規模団地の配置

↓旭区大規模団地の概要

	若葉台団地	左近山団地	ひかりが丘団地	西ひかりが丘団地
分譲・賃貸(合計戸数)	分譲・賃貸等(6,302戸)	分譲・賃貸(4,797戸)	賃貸(2,325戸)	賃貸(960戸)
開発次期(設置者)	昭和54年～(県公社)	昭和43年～(UR)	昭和43年～(市)	昭和45年～(UR)
最寄駅へのアクセス	市営バス十日市場駅行 13分	相鉄バス二俣川駅行 16分	相鉄バス鶴ヶ峰駅行 15分	相鉄バス鶴ヶ峰駅行 15分

※同時に計画された分譲住宅と賃貸住宅等をひとまとまりのものとしています。